農園便り　2月号

2024/02/01

(134 号)　　文責　筒口典康

1/28　　片付け中の 33 区

1/28　　引っ越し先の 57 区　客土中

練馬区区立農園の抽選結果の通知が届きました。　関町南農園 3 丁目農園 57 区。南門のすぐそば。　1 月 31 日まで使用していた区画のそばなのでありがたい。　前の耕作者の方が、既に片付けを終えている。

区との約束で 2 月に入ると一切園内に入れませんので、1 月中に 33 区の表土をすくい取って、57 区に客土しました。　土中の微生物、昆虫、ミミズ等の移動です。生命体の移植であります。　「育土」の始まりです。

大変な重労働でありました。

2 年間の間に、粉炭、籾殻燻炭、竹炭粉、牡蠣殻、醗酵牛糞･馬糞、バーク堆肥、竹チップ、**「糠」**、作物残渣などを多投入して、しっかり「土作り」をしました。　隣接の耕地よりも 15 ㎝ほど盛り上がっていました。

同農園のＳさんと 33 区の畑の状態を色々と話し合ったのです。　支柱を押し込むと、すると、1 メートル 20 センチほど楽に突き刺さる。　押し込んでいる私も驚く。　有機物を地表に置き続けただけなのに。　全く、「オクオク･ラクラク」の軟らかい畑地になっているのであります。

植物たちの「根耕」。　菌･細菌による「菌耕」。　ミミズや昆虫たちの糞。「ミミズ耕」。　土の団粒化･･･が、進む。　この畑地は、林の「土」、草原の「土」と同様な循環が始まっているのであります。　「土」のことは、「土」に聞け！。と、言うことなのでありましょう。

3月に入ったら、耕地の基本構造を作って、お野菜を育てまいります。　とにかく、何もかも試行錯誤の素人考えなのでありますが ･･･。　耕地の中央部に、作業路。　南側に水分要求の多いい作物を。　北側に乾燥気味の広畝を設けます。　南･北の広畝の真ん中に深く、幅狭の追肥溝を設けます。　詳細は、昨年の9月号･10月号。　今年も同様な構造でトライしていきます。

「江戸」「明治」「大正」時代の農法を科学的に見直す。　「昭和」以降の、「現代農法」＝「科学肥料と農薬使用」＝「慣行農法」。　「土」の生命をを皆殺しにする農法を終わりにしたいのであります。

有機･無農薬栽培で「元気野菜」「健康野菜」を作ろうではありませんか。　狭小な菜園であるからこそ試すことが出来るのです。　農家さんでは試行錯誤は、中々できない。　シロウトの寝言でもありましょう。

千葉県佐倉市坂戸1057の「林農園」専業農家の営農は、ずば抜けた活動であると思います。　〒285-0078　☎ fax 043-498-0389　　詳細は、昨年の9月号。

林さんの畑が、私の33区の「作り方」ととても良く似ているのであります！。１町歩ばかり続く、広大な野菜畑が ･･･ 。　若い時にお世話になった学校の後輩であることは、嬉しい。

ビニールのマルチは、なるたけ使いたくない。４～５年で傷んできて、廃棄。

去年の秋に田中さんに教えてもらいました。　里芋の植え込みで、黒ビニールマルチ掛けの「技」をどうしようかと考えています。　スタートでビニールマルチ、その後に竹の枝葉･刈り笹マルチで･･･行きましょうか。　ともかくビニールは、なるたけ使いたくない。　低温の焼却処理では、ダイオキシンのガスが発生するのです･･･から･････。

サトイモは、ショウガと相性が良いようで、芋の前側と、後ろ側に植えてみ

ます。　どちら側が生育が良いのか、やってみます。　ショウガは、抜きたてを醤油で漬けていただくのが、美味しい。 マメ科･イネ科の刈草でマルチをしよう･･･ 。

種子箱に買い置きの種が沢山溜まってしまいました。　春蒔きのものを混ぜまして、「混播」。　厚蒔きにならないように気を付けて ･･･ 。　作業路の直ぐ北側に･･･。　発芽不能になった種も出てくると思います。　1 種類ごとの列播きが良いのでしょうが、草原のようにして競争させます。 適地適作、適期適作の考え方としては難がある。　原のように競争させます。　大根や小松菜が強い。　2 年前の時は面白い出来でありました。　混作すると、病･虫害が少なくなるようです。　生き残りレースとも言えそうです。

今年もまた、コンテナーの水槽を置きます。　自然の樹幹を図るのです。　小鉢に水草を栽培する。　イネ、クワイ、食用姫蓮根、ウオーターポピイ、クレソン、芹･････。

善福寺公園からオタマジャクシを探して、水槽に入れる。　水面の反射光で、昆虫や鳥たちがやってくる。　トンボやァメンボウ、蛾、蜂たちの給水場になる。　飛んでくる者たちが、集まる。　天敵の活用が増すであろう。

殺虫･殺菌剤が不要になるのであります。　減農薬で、野菜を作れるのであります。　鳥たちの糞の白い石灰分のせいか病気の発生も少なくなるようだ。　クモの種類も増す。　循環する大自然 。　宜しくお願いします。　「ミニビオトープ」農法と言えるでありましょう。　蚊が発生しますので**メダカ**を入れる。

投入する微生物たち　何処でも手に入るものたちを使います。

「麹菌」、スーパーで買う。･･･ 高いものではない。　**「納豆菌」**、食卓に出でくるやつ。　容器のすすぎ汁で良い。勿論ナットウの豆で良い。　**「乳酸菌」**。牛乳の蓋を開けておけば、自然採集できる。　**「酵母菌」**。パン酵母、葡萄酒酵母、酒酵母、いろいろあります。

「放線菌」いわゆる土の臭いの元。　強力な菌で、他の菌や細菌をやっつける。ミミズの糞の中にたくさんいると言う。　この菌は、カニ殻の成分を好む。　病気予防に有効！。　畑に入れる。　撒く。置く。

公園に行って、溜まった落ち葉に白く固まった塊が見つかることがある。　いわゆる**「シロ」**＝「白」＝「城」。　こぼれた弁当粕やおにぎりを中心に、醗酵し固まっている。　触ると暖かい。　酵母菌を含む「善玉菌」の塊りだ。

ブドウやリンゴの皮。ブドウ酒や生ビールの瓶底の溜まりに「酵母菌」がいる。

市販されている用土の中の醗酵菌も使い目だ。　ダルマ堆肥（タキイ種苗）、醗酵牛･馬糞(ＪＡ石神井･ｵｻﾞｷﾌﾗﾜｰ)、醗酵鶏糞(ＪＡ石神井･ｵｻﾞｷﾌﾗﾜｰ) ･････ 。

「糠」「籾殻燻炭」を撒く。置く。　　保谷駅の南口、西武バス(吉祥寺行き)の停留所近くにある米飯店で**「糠」**を仕入れることができます。一俵(米袋)200円で買えたのに、今や０００００円もする。　高くなったものである。　田舎に行けば、150 円か 200 円。　高くても 200 円なのに。　村(むら)角の精米所で玄米精米すると、持ち帰るこのとが出来る。　高くなったものだ。

酒米、寿司米の農家は、減農薬・無農薬。　従って、「糠」も「籾」も農薬の使用量が少ないものが手に入る。　安全である。

「籾殻燻炭」は、農協･ｵｻﾞｷﾌﾗﾜｰで買ってます。　農家は、燻炭器で焼く。　以前は野焼きでしたが、農業者以外は焼けない。　上石神井の農家、石塚さんが、長野県更埴市のモキ製作所の燻炭製造器で焼いていたら、苦情が出て、お止めになった。　都市部では、農林省で認可された製品でも、苦情には遠慮せざるを得い。　「籾殻燻炭」は、買うしかない。

「籾殻燻炭」は、焼却時の高温で、無菌である。　「竹炭」のように殺菌力もありそうだ。　炭の細胞は細かな部屋状である。　有効菌の住処になる。「保水」「保肥」の効果もある。

昔、農家は風呂や釜戸で薪で焚く。　その煙で、柿の蔕(へた)虫の防除。　それで、籾は、「籾酢」と言うことになりましょう。　「粉炭」も同じ効用がある。**「煙」**も大切なものでありました。

「芋」状の球根の越冬に「籾」「籾殻燻炭」をつかっている。･･･ 保温材。

「 根 耕 」　　イネ科の作物は、根が深い。　パパイヤ、キクイモ、クロタラリア。　　ホトケノザ、ハコベ、スズメノカタビラは、根が広がる。

パパイヤの根は、地中に深く広く伸びる。　冬になると根は凍死してしまう。そこが良い。　クロタラリアも同じ勢い。　硬い盤(硬い土の層)を突き破る。

キクイモも強勢な植物でスゴイ。　練馬区の区民農園では、植えないようにとご注意あり！。　雑草化防止。　私の場合は、キクイモの勢いの良いところを逆利用。　伸ばして、刈って、「緑肥」として、ドンドン使います。　秋口に入ったら地上部を鋸で切る。　球塊＝球根を作らせない。　で、根部は腐る。

草マルチに使う。

　クロタラリアの効用は以前にも書いたが、ネコブセンチュウをヤッツケルる。美肌ダイコンが出来ます･･･。　乾かして地表に置く。　貴重なマルチ材。

　いずれにしても、根のおかげで土の中に空隙がができる。　「根耕」である。

「 虫除けの ハーブ 」　　オザキフラワーは、大規模な埴物の販売店であるが、「虫除けハーブ」のコーナーがある。　無農薬・減農薬と言うことで、利用している。　中には生育を阻害するハーブもある。　タンジイマジイは、多用している。　キク科･ミントの仲間は、虫除け効果のあるものが多いい。

2/1　　白梅がほころぶ

1/15　　メジロ　採食

　春よ来い、早ーやく、来い。　ヒヨドリもミカンを啄みに来る。　福寿草の花芽を探すが、まだ出ていない。 去年は紅梅が一番。今年まだまだ蕾が膨らむ気配がない。

　ビックリグミ ⇒ 実桑(ビルベリイ) ⇒ イチゴ ⇒ ウメ 。　梅は、梅ジャム。梅酒。梅干し。　果実の加工を楽しむ。　桑の実のジャムは、生食より美味しい。　生では味わえない香りが着く。　まるで、魔法のようである。

　柑橘類のジャムでは、柚子が一番。　文旦が二番。小柚子もなかなか良い。キンカンのジャムもおいしい。　苦味を好むお方は、甘夏蜜柑がよろしい。

　始め、鉢で楽しんでいたモノたちが道路沿いに植えましたら、10 年経ったら見事になりだした。　オドロキ。

　果樹は 5 年、10 年単位で考えていくところが面白い。　お野菜は、一年単位である。　果樹栽培の方が面白いのではと思う、。

T、